

希望の国をめぐり

コロンブスがアメリカ大陸の発見以来、世界の歴史は西洋が非西洋を蹂躪する形で動いている。

縄文時代以来、一万二千年にわたって日本は西洋の植民地にならなかった。先の敗戦まで米連合軍以外、他民族に一度も侵略されなかった。先進国では希な存在です。

アメリカ人の考え方のベースにある価値観は日本人が歴史的に培った価値観に、絶対相容れない。

敗戦の自民党政権で洗脳され見事なまでにアメリカかぶれの、だめな国になった。

マッカーサーは日本の優しさや勇敢さをフィリピン・レイティ島で身を以て知った。厚木基地に降り立ち、支配階級の用意周到な占領政策で戦後支配

経営者と従業員が心を一つにし、活気ある職場で全員が高い意欲を持って働くという昔ながらの日本の会社の光景は、今ではなかなか見られなくなってしまう。

一瞬で絶望

連合軍

は軍国主義という邪悪な思想が西洋流の民主主義という正義に敗れ、単に弱かっただけを「道徳的に間違った戦争」という構図にした。日本占領政策の弱体化計画では、戦後教育の戦前を全否定、国民の正常な判断力を奪い、歴史と伝統、文化をねじ曲げ骨抜きにした。

欲望の追求主義で、日本人が骨抜きにされ、西洋的価値観が支配した。

格差は金持ち優遇、税制や、

貧困層から福祉を取り上げることで作り上げたものです。当然富める人はますます富み、結婚も出来ない低賃金貧困層が急激に増えた。不況で余剰労働力は切り捨ての思想が蔓延し、派遣社員を受け入れてきた。

頭の良いものがそうでないものを支配し、搾取するのが当然の自由競争がマーケットの名のもとに正当化された。

プレスリーを踊る自民党小泉平蔵政権の新自由主義導入は、抵抗するまでもなく幻想に流れ、日本人が蹂躪された。

日本人の美意識。見えなるところまで作り込む。日本の伝統美が疲弊している。問題の根源には明治以降の近代化、西洋化で徐々に自己を見失い「浮き草」状態、さまよっていることです。

他人を幸せにすることが、実は自分も幸せになる唯一の方法。

日本の歴史観と大局観を取り戻さなければならぬ。先の衆議院選挙で自民党は歴史的な敗北をした。しかし次の政権は稚拙そのもの。原発を見ても国民を愚弄し、幼児以下の扱い致命的な失敗を繰り返す。明らかかな死神？絶望的に見えます。

三年前のリーマンショックで西洋が限界に至ったいま、日本人のアイデンティティを見つめ直すことが世界を救うことになるはず。日本は消滅の瀬戸際？「文明の転換点」ではないのか。

意識の話

毎日の生活が希望に満ち、自分の成長と人様のため向きに生きることができれば、幸せな人生といえます。

このため不可欠なものには、三つの意識が必要です。問題意識、危機意識と当事者意識です。一つでも欠けると無責任な欠陥意識、幸せは無理。

目的も方向も見えず、具体的な行動は取れないので、目の前にあるチャンスは通り過ぎ、また気が付かないのです。

欲望は他者と比較し同一化と、区別し独立性を認める差異化、階級社会の欲望がある。人類は自らの欲望に限界を設けられないことを歴史が教えています。

西洋の白人侵略国家に対し、日本文化は人類を救う最後の砦でしょう。



(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2012年3月7日 (水) NO. 240

地域から明るい未来を作ろう